

信州大学 教育学部 同窓会報

信州大学教育学部同窓会報
【第28号】

発行人 土屋 聖 史
事務局 長野市西長野6ノロ
信州大学教育学部内
TEL・FAX (026)238-4370



「同窓会のこれから」を考える

同窓会会長 土屋 聖 史

昨年の八月に開催された総会において、第十四期同窓会会長に推挙され、現在その任に当たっている土屋聖史と申します。昭和五十三年卒業生であり、大学生時代はバスケットボールと女学生のお尻を追い回していた、不屈き者でございます。少しでも、信州大学教育学部同窓会が皆様の身近なものになりますよう、尽力して参りたいと思いますので、どうぞご支援のほど、よろしくお願い致します。

私は、長野地区理事一年間、副会長二年間とこれまで同窓会に関わって参っておりますが、ここ何年かの会長の方々は本当に大変だったと思います。「同窓会の法人化」の問題がありました。幹事会や理事会にて協議を繰り返し、また、司法書士の方からもご意見を頂き、最終的には「人格なき法人」として、今まで通りの同窓会運営を選択致しました。「信州大学校友会」の問題もありました。この問題については、各学部同窓会の集まりである同窓会連合会で繰り返し審議され、各学部同窓会が「オール信大」という意識を持って、信州大学に協力していくことで話がまとまり、本教育学部同窓

会においても昨年八月の総会において、承認を受けました。

さて、今後についてですが、最も大きな問題は、教育学部同窓会三十周年となる平成二十九年に向け、どんな取り組みを積み上げていくのかであります。記念の冊子を作るのかどうか、記念式典を行うのかどうか等、今から検討をしていかなければなりません。また、三十周年という一つの節目にあたり、もっと目に見える形で学生や大学への助成は考えられないか、現在は現役校長がその任に当たっている会長職をOBの方々にお願ひして、長期的なビジョンに立つて同窓会の運営を行って頂くのはどうか等も含め、考えていく必要があると思います。

今年三月に、教育学部の謝恩会に出席させて頂きました。女学生の艶やかな着物が、まるで花園にいるかのように思わせてくれて、「教育学部の同窓会長でよかった。」とつい、私は思ってしまった。卒業・修了生一同の企画運営により、次々に様々な企画が行われていく中、学生と教授たちの醸し出す、温かな雰囲気

をたっぷり味わってきました。

立派に育っていく若い後輩たちを、陰から支えてくれる同窓会でありたいものだと考えさせられた、楽しい一時でありました。

第十四期同窓会役員名簿

(平成二十五年八月～平成二十七年八月)

名誉会長	平野吉直	顧問	佐野昌男	中田育成	中田宣彦
			三寺勝美	玉川隆雄	町田 修
			深澤弘二	中澤 寛	
会長	土屋聖史	副会長	宮本伸一	宮澤真一	古幡民子
監事	三沢弘幸		青木正治	小林洋子	別府 桂
本部理事	齊藤忠彦		伊藤冬樹	小林比出代	酒井英樹
				安達仁美	
地区理事	下伊那 湯澤正農夫		諏訪 矢島俊樹	上伊那 宮下徳雄	
			北安曇 手塚善雄	木曾 勝野 忠	
			松本 竹平康功	安曇野 丸山 強	
			上小原 一男	佐久原 英正	
			上水内 小林重之	更 埴 市川正之	
			須坂上高井 寺島寿一		
			中野下高井 山崎澄人		
			飯山下水内 小林和人		
			塩 筑 塩原義郎		
			長 野 清水豊喜	湯田 博	
			高 校 富岡 修		
幹事	村澤修吾	木内 昇	井出良子	望月 弘	
	大上みどり	岩田 靖	宮澤昌道		
	茅野公穂				
事務局	中村直人	伴真理子			

第二十六回 同窓会通常総会報告

平成二十五年度の同窓会通常総会は、八月十一日（日）、長野市岡田町の「ホテル信濃路」において、四十六名の出席を得て開催された。

中村直人幹事の進行のもと、小林洋子副会長の開会宣言、中澤寛会長の開会挨拶の後、議長団に、小松信美、小林重之、議事録署名人に、山崎澄人、原一男の各氏を選任、書記に宮澤昌道、伊藤冬樹の各氏を任命して議事へと移り、次の四議案について審議された。

● 第一号議案

信州大学「校友会」への参加について

配布資料に基づき中澤寛会長より「校友会」設立の目的、「校友会」の構想、「校友会」設立にいたる経過、負担金、ならびに今後の対応について説明があり、信州大学教育学部同窓会が信州大学「校友会」へ参加することが提案された。①これまで進めてきた教育学部同窓会の自主的な活動を尊重すること、②校友会の負担金は教育学部同窓会が主体性をもって決めた金額とすることを付け加えた上で、全員一致でこれを承認した。



会長挨拶 中澤 寛会長



進行役 中村直人幹事



祝辞 田中副学部長

● 第二号議案

平成二十四年度事業報告書、歳入・歳出決算及び財産目録の承認について

総会資料に基づき、久保信男事務局長より平成二十四年度事業について、別府桂幹事より平成二十四年度歳入・歳出決算報告及び財産目録について説明がされた。また、三沢弘幸監事より適正に処理されているとの会計監査の結果が報告され、全員一致でこれを承認した。

● 第三号議案

平成二十五年度事業計画書（案）及び歳入・歳出予算（案）の承認について

総会資料に基づき、久保信男事務局長より平成二十五年度事業計画（案）について、別府桂幹事より平成二十五年度歳入・歳出予算（案）についての説明があり、全員一致でこれを承認した。

〔平成二十五年度事業大綱〕

- 一、同窓会報（第二十七号）発行、会員、特別会員への郵送
- 二、研究助成 教育学部留学生後援会基金へ拠出、教育研究に対する補助、学生課外活動への補助
- 三、学部後援 学部・大学院充実に向けての援助、就職活動への支援
- 四、組織充実 支部組織の強化、地区代表を通して卒業生の会費未納者への納入依頼、退職校長未納者への納入依頼、新任校長・教頭未納者への納入依頼、在学生未納者への納入依頼
- 五、長期構想 「信州大学同窓会連合会」への協力、総会のあり方・基本財産の運用、同窓会の設立経過と節目について

● 第四号議案

第十四期役員の改選について

中澤寛会長より会長選挙について諮られ、土屋聖史副会長が会長に選出された。中澤会長より、宮本伸一、宮澤真一、古幡民子会員が副会長に推薦され、全員一致でこれを承認した。清水正先生の顧問の辞任について、これを報告した。土屋新会長より、配布資料によって、監事・理事・幹事が推薦され、全員一致でこれを承認した。土屋新会長より、中澤寛前会長の顧問就任の披露があった。

議事終了後、臨席の田中敏氏（教育学部副学部長）より祝辞をいただいた。小林洋子副会長の閉会宣言で総会を終了した。

平成24年度信州大学教育学部同窓会一般会計歳入歳出決算書

自 平成24年4月 1日
至 平成25年3月31日

歳入合計額 5,801,777円也
歳出合計額 4,725,634円也
差引残額 1,076,143円也 翌年度へ繰越

〈歳入の部〉

項 目	予 算 額	決 算 額	増・△減	備 考
1 前年度繰越金	961,223	961,223	0	
2 会 費	5,760,000	4,840,000	△ 920,000	242名入金
3 雑 収 入	10,000	554	△ 9,446	利子
歳 入 合 計	6,731,223	5,801,777	△ 929,446	

〈歳出の部〉

項 目	予 算 額	決 算 額	増・△減	備 考
1 会 議 費	580,000	322,829	△ 257,171	総会・役員会等
2 事 業 費	1,300,000	1,166,372	△ 133,628	会報・学部後援等
3 事 務 費	1,540,000	1,474,815	△ 65,185	会報発送・印刷等
4 事務委託費	1,586,000	1,586,000	0	雇用費等
5 雑 費	150,000	134,618	△ 15,382	連合会会費・謝恩会御祝儀等
6 予 備 費	1,575,223	41,000	△ 1,534,223	事務局長引継ぎ
歳 出 合 計	6,731,223	4,725,634	△ 2,005,589	

ご挨拶

教育学部長 平野 吉直



昨年度末から今年度初めにかけて、教育学部同窓会にとつて、誇らしく嬉しい出来事がありました。それは、卒業生である小平奈緒さんと住吉都さんがソチ・オリンピックに、本学部四年生の山崎福太郎さんがソチ・パラリンピックにそれぞれ出場し、活躍されたことです。一月二十三日には、教育学部において同窓会の支援をいただき、小平さんと住吉さんの壮行会を盛大に開催することができました。また、四月四日に挙行された信州大学入学式の間では、小平さん、住吉さん、山崎さんに加え、教育学部卒業生である登山家の花谷泰広さん、高校教員でトレイルランナーの山本健一さんが、その活躍を称え表彰されました。花谷さんは、ネパール・キャシャール峰南リッジ初登攀によって第二十一回ピオレドール賞を受賞、山本さんは、ピレネー山脈で行なわれた「グラン・レイド・デ・ピレネー（ピレネー大耐久レース）」で日本人初の優勝という快挙を成し遂げました。教育学部卒業生が、世界の舞台で数多く活躍されています。

さて、国立大学改革の一環として、文部科学省は、すべての国立大学・各学部について、研究水準、教育成果、産学連携等の客観的データに基づき、各大学・学部との意見交換をおして、その強み、特色、社会的役割を整理し、そのミッションを公表しました。これをミッションの再定義と呼んでいます。

信州大学教育学部のミッションの再定義の詳細は、お時間のある時に文部科学省HPを参考いただくこととして、その一部を抜粋して記させていただきます。

きます。まずは学士課程教育における教員養成として、「附属学校や公立の連携協力校等を積極的に活用するなど、実践的な能力を育成し、質の高い義務教育諸学校教員を養成することによって長野県における教員養成の拠点機能を果たしていく。」と記され、そして、そのための方策として、「附属学校の中に教育研究拠点を設け、学部・大学院の教育に附属学校の授業や環境をこれまで以上に活用し、大学の授業と研究を附属学校というフィールドで展開するとともに、大学教員の専門性を取り入れた附属学校の授業を拡充する。」と記されています。また、大学院における教員養成・現職教員の再教育機能に關しては、「長野県教育委員会等との連携・協働により、教職大学院を設置することによって、学部段階での資質能力を有した者の中から、新しい学校づくりの有力な一員となり得る新人教員の養成（いわゆるストレートマスター）を行うとともに、現職教員を対象に、地域や学校における指導的役割を果たし得るスクールリーダーを養成する。」となっており、教職大学院の平成二十八年度開設を目指し、本格的な検討に現在取り組んでいます。

教員養成に關して、大きな改革、存在意義の再考を求められています。質の高い学校教員を育成するという学部の使命は何ら変わりません。これまで以上に、数多くの優秀な指導者を養成していく努力を日々怠らないようにしていきます。

同窓会員の皆様には、日頃から信州大学教育学部の運営と学生の勉学に対して、多大なご理解とご支援をいただいております。特に、教員採用に向けての模擬試験の実施などに多大なご協力をいただいております。教育学部教職員を代表して、心から感謝申し上げますとともに、今後ともご支援を賜りますようお願いいたします。

学部の新転任・転退職教員の紹介

【平成二十五年度～平成二十六年度新転任教員】

田中真由美 先生（言語教育）

中谷 惣 先生（社会科学教育）

林 寛平 先生（教育科学）

【平成二十五年度転退職教員】

木村 仁 先生（美術教育）

昭和五十年四月一日着任、定年退職

茂木秀淳 先生（社会科学教育）

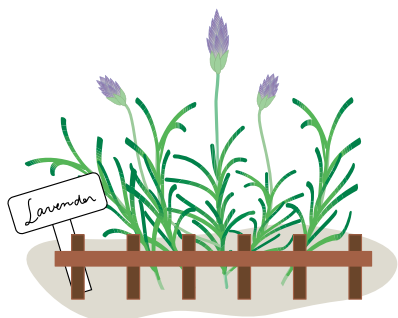
昭和五十七年十月一日着任、定年退職

土井 進 先生（教育科学）

平成四年四月一日着任、定年退職

武者一弘 先生（教育科学）

平成十六年四月一日着任、退職



ご挨拶

信州大学学長 山沢 清人



信州大学教育学部同窓会の皆様には、平素より信州大学の教育研究にご支援を賜り、誠にありがとうございます。

今年2月にソチで開催されたオリンピック・パラリンピックでは、小平奈緒選手をはじめとした教育学部卒業・在学学生も出場し、大いに活躍してくれました。皆様の中には、テレビの前で熱心に彼らを応援された方もいらっしゃるのではないでしょうか。

さて、平成25年11月に示された「国立大学改革プラン」では、グローバル化と少子高齢化の進展、新興国の台頭等による競争の激化等、急激な社会経済状況の変化へ対応するため、抜本的な改革が大学に求められています。

一方本学では、平成24年6月以降、教育研究改革・組織改革である信大改革を着実に進展させてきました。この改革は、持続可能な社会の構築の課題の解決にグローバルに力を発揮できる高度専門的な人材を育成することを目指すもので、大きくは以下の4つの柱で構成されます。

1. 先鋭領域融合研究群の設置（平成26年3月1日）
2. 大学院課程の整備
3. 学士課程教育の整備
4. 学術研究院（教員組織）の設置（平成26年4月1日）

このうち先鋭領域融合研究群では、研究に重点を置くことができる環境を整備し、そこから得られた成果を、学術研究院の設置や教育課程改組を経て、質の高い研究に裏付けられた教育の実現につなげたいと考えています。

このほか、信州大学校友会及び信州大学「知の森」基金が新たに活動を開始しております。それぞれパンフレットを同封しておりますので、是非ご一読いただき、

校友会へのご登録と、「知の森基金」へのご協力をお願いいたします。

以上の通り、本学が国立大学に求められる役割を果たし、信大改革を確実に実現していくため、教職員一丸となつて日々取り組んでおります。信州大学教育学部同窓会の皆様にも、一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

ソチパラリンピックに参加して

山崎 福太郎

この度は、2014ソチパラリンピックアルペンスキー立位カテゴリーへの出場に多くのご声援とご支援をいただき、ありがとうございます。

高校三年生のとき、大学選択にあたって大切にしたい夢が二つありました。一つは長野県の中学校社会科教員になること、もう一つは四年後にあるソチパラリンピックへ出場することでした。これらの夢をかなえられるのは信州大学教育学部しかない！と強く感じ、入学させていただきました。そして入学から四年後、四年生の後期からスキーに集中するために休学させていただき、大学の先生方や同窓会の皆様、大学の仲間達など多くの皆様からのご理解・ご支援を賜りましてソチパラリンピック出場の切符をつかむことができました。

初めてのパラリンピックの会場となったソチは最北の亜熱帯地域と言われるほど日中は半袖で過ごせるくらい温暖でした。グレレンデは日を追うごとに雪が融けてゆき、日本の春のような雪質でした。レースコースは急斜面と緩斜面の変化が激しいコースで、雪質は雪面硬化剤をまいてある程度硬く仕上がっていました。ザラメのようになっており、そんなに多くはないのですが今まで経験してきたレースの中でもっとも難しいコースだったと思います。

僕が出場させていただいたのは三月十三日の回転（スラローム・立位）



と十五日の大回転（ジャイアントスラローム・立位）で、十三日の回転では初めてのパラリンピックでのレースで、スタートエリアにいるとゴールから歓声が聞こえてきて知らず知らずの内に緊張していました。スタートバーの前に立ったときには緊張しすぎて頭の中が真っ白になり体が思うように動かなくなるほどでしたが、皆様からの力強い応援をさせていただいているのだから、と自分に言い聞かせスタートを切りました。回転の一本目が終わると多少落ち着くことができ、大回転では自分の出来る限りの滑りをぶつけることができたと思っています。レース全体を通してスタート順が後半だったので想定はしていましたが、コース上には前に滑った選手達の溝ができていてコンディションがあまり良くなく、完走してくるのが精一杯になってしまいました。

このソチでの大会を通して世界最高峰の選手たちと同じ空間で過ごし、彼らの四年に一度の祭典にかける思いとその覚悟を肌身で実感できました。そして、夢の舞台に立つことができたことは本当に嬉しく、感謝し尽くせません。それと同時に、自分自身の弱さと足りなさを痛感しました。自分が世界の中でどのくらいの位置にいるのかが明確に分かり、順位が回転30位、大回転26位という結果が精一杯やりきった結果でもっととスキーがうまくなりたいと思いました。

ソチでの経験、そしてソチに至るまでの過程で得たものをもう一つ残している夢を叶えたときに活かしていきたいと考えています。これからも自分の夢に向かって進んでいきたいと思っておりますので、応援をしていただけると嬉しいです。今後どうぞよろしく願います。

ソチ五輪での挑戦

小平 奈緒



ソチ五輪では、たくさんの温かいご声援ありがとうございました。今回は、500m5位、1000m13位という結果でしたが、またもこの五輪という

舞台で、多くの事を学ばせていただきました。バンクーバー五輪から4年、本当にスケートに没頭し

た毎日でした。試行錯誤を重ね、積み上げては挑戦し、水から突き放されても、しぶとく自分自身や水と向き合ってきました。上手くいかない事の方が多かったのかもしれませんが、それでも一つずつ壁を乗り越えていった過程は、ソチに挑む自分に自信を与えてくれました。

世界の「進化」が急加速した時代にソチ五輪がやってきた、そんな印象でした。バンクーバー五輪とは、全く違うレベルの世界に「進歩」では足りなかったのだと実感しました。500mでベストの滑りが発揮できたことには、達成感がありました。しかし、もつと速くなりたい、上手になりたい、知りたい、学びたいという気持ちが止まることなく動き続けているということは、まだ自身に可能性が残されているのだと思っています。

平昌五輪への4年間は、努力と知恵と工夫を持って「進化」することを目指して邁進します。そして、来るべきその日に信州大学の皆さんや地域の方と喜べる瞬間を分かち合えたらと思います。

ソチオリンピックに出場して

住吉 都



ソチオリンピックでは、たくさんのご声援ありがとうございました。前には壮行会を開いていただき、同級生が駆けつけてくれるというサプライズに元氣と勇氣をもらいました。帰国後も先生方、同級生から労っていただき、嬉しい気持ちでいっぱいです。ありがとうございます。私は今回のオリンピックが初出場で、500mと1000mに参加しました。その年の春からは、例年より増してトレーニングに励み、夏季の水上市トレーニングでも昨年のベストタイムを上回る高記録が出ていたにも関わらず、水上市シーズンに突入してからはそれを保つことができませんでした。これまでのレースの中で生涯のパフォーマンスをすることを目標に挑んだオリンピックでしたが、手は届かず、悔しさが残る結果となりました。

た。結果は満足できないものでしたが、オリンピックの舞台に立てたことや、レースを観戦してくださった方々と様々な想いを共有できたことに感謝と喜びを感じています。ベストとは言えなかった状態の中でも、オリンピックへ向けて走り抜くことができた経験は私の大きな財産となりました。

これから先、きっとまだ速くなれるという可能性を信じ、今年もスケート選手としての一步を踏み出しました。一挑戦者として、失敗を恐れずに自分を羽ばたかせていきたいと思っています。今後とも暖かいご声援よろしくお願ひいたします！

第21回ピオレドールに参加して

花谷 泰広



右から2人目

ピオレドール賞(Piolet's d'Or)とは、登山の本場フランスの登山誌の主催により1991年に創設された賞のことで、その前年に世界各地で行われた登山(この場合はクライミング的な要素が大きな登山を指す)の中から、特に優れたものを選んでノミネートし、このイベントの中で勝者を決める、といった意味合いのものであった。歴史や規模は違うが、サッカーのパロンドール(Pallone d'Or)や映画のパルムドール(Palme d'Or)もやはりフランスが発祥である。その内容から、「登山界のアカデミー賞」と呼ばれることもあった。イベントはフランスの山岳リゾートであるシャモニと、ヨーロッパ最高峰モンブランをはさんだイタリア側の街、クールマイユールで開催される。今回は2012年の秋に登った、ネパールヒマラヤ・キャシャール峰(6770m)の南ピラー初登攀が評価されて、このイベントに招待された。

ノミネートされる登山の特徴は、ヒマラヤ山脈やアンデス山脈などにあ

る高峰で行われた冒険的な登山が多いが、中にはアラスカやパタゴニアなどで行われた、標高に関係なく技術的に困難なクライミングが選ばれることもある。いづれにせよ、その登山の内容が基本的に初登攀であること、内容が独創的で、難易度的にも厳しく、もちろんシエルバや酸素などの助力がないことが前提である。結果だけでなく、その過程を重んじる。ちなみにこれまでの日本人の受賞者は4グループ10名となっており、2009年以降2年に一度のペースで日本人が名を連ねている。特筆すべきことは、このうちの3名が信州大学の出身者であるということだ。

我々が招待された第21回ピオレドールでは、イギリスから2チーム、フランス、アメリカ、ロシア、日本からそれぞれ1チームがノミネートされた。一つの登山に情熱を傾け、力を尽くした者同士でもあるので、国や言葉は違っても心は通じ合うものがある。ピオレドールというイベントの魅力は、優れた登山を選ぶことではなく、こうやって多くのクライマーと語り合い、体験を共有することにあると思う。特にノミネート各チームが行うプレゼンテーションには熱が入る。発表する立場では、登山中に経験したことを出来るだけ言語化しなければならぬ。英語が苦手な我々は、身振り手振りをまじえて一生懸命にストーリーを語ったが、内容はともかく、気持ちは伝わったはずだ。また期間中は選考作業だけではなく、地元の山岳ガイドの案内のもと、スキーやクライミングなどのアクティビティも用意されている。これもまた親睦を深めるには欠かせない。

当然のことではあるが、ピオレドールのための登山ではない。登山とは究極の自己満足であって、頂上に立とうが途中で敗退しようが、自分自身が満足したかどうかが必要だ。僕自身の感覚は、キャシャール峰という山に登り、7日間という時間で自分の能力の全てを出し切れたことに満足している。そして、そのご褒美として、ピオレドールに招待されたのだと思っている。今後の目標は、やはり今回の登山に匹敵するような満足感にひたれる登山することだ。世界は広い。まだまだ魅力的なフィールドはたくさんあるので、また新しい自分の足跡を残していきたい。

同窓会情報

教育学部同窓会・研究補助事業について

本号でも、平成十五年度より実施しております同窓会研究補助事業についてお知らせいたします。

本事業の主旨は、①日々の教育研究、教育実践を大切に、自らの授業改善に努めること、②専門職としての教師自らの教育研究・教育実践を磨くこと、③教育の振興・改善についての情報を共有していくことに置かれています。対象者は教育学部同窓会員（同窓会費納入者）で、応募者一律に一万円を補助しています。

応募希望者は所定の様式（「研究補助願及び研究概要」）にしたがって、同窓会事務局（〒380-8544 長野市西長野6-10）にお申し込み下さい。当該年度の十一月末日を応募締め切りとしています。応募規定などの詳細な内容は、同窓会ホームページをご覧ください。なお、お申し込みの際には必ず事務局までお問い合わせ下さい（研究補助は十名までとなっております、受付可能かどうかの確認のためです）。

平成二十五年度助成交付の研究テーマ

- ① 水出 一寛（岡谷市立岡谷小学校）
「子どもたちと共に創る授業」をめざして
～自ら自分の言葉で表現する姿をもとめて～
- ② 吉澤 高志（飯田市立上郷小学校）
小学校におけるゲーム領域の教材づくりとその検討

③ 青木 正治（長野市立柳原小学校）

教師としての資質向上に資する校内研修の一実践

④ 武田 昌之（長野市立加茂小学校）

長野市での米作りとTPP

⑤ 岡田 憲和（長野市立若穂中学校）

数学の社会的有用性を高めていく指導のあり方

⑥ 川上久美子（須坂市立仁礼小学校）

地域素材を取り入れた総合的な学習の時間のあり方について
―地域の民話を劇にして発表しよう―

⑦ 傳田 伸和（長野市立篠ノ井東中学校）

自己肯定感を高める学習展開の工夫

以上が、平成二十五年度における補助金交付者及び研究テーマに関する一覧です。これらを大いに参考にしていただき、積極的に応募していただきますよう、よろしくお願いいたします。

研究実践より

教師としての資質向上に資する

校内研修の一実践

青木 正治

自己の内面を耕すという言い方は、教師間では時々耳にする言葉です。教育という営みが、子どもの人としてのよりよい育ちを願っているからには、育つ子どもの内と外の調和のとれた発達を保障することがその使命となります。では、学校にあってその

直接の責任を負う立場にある教師は、当然のことながら不断に自己の内と外を深め、高めている必要があります。最近よく言われる「自らが教師としての資質向上に努める」ということです。

そのための実践は、教育行政関係機関や各学校ごとに職員研修という形で工夫された実践が見られます。その中で、私が教師初任であったころから比べて極端に少なくなってきた研修があります。それは、哲学、宗教に関わる研修です。人間形成の中で哲学や宗教が受け持つところは、人間理解を深め、人としての生き方を自分に問いながら自己修正を自らが図っていく仕方を考える領域です。つまり、教師としての自己を高めるために自己に問う仕方を高めていく研修です。このような研修は、「朝学」とか「夕学」という名称で、30年ほど前までは、どの学校でも学校長が中心になり、多くの職員が参加して行われていました。テキストを定めて読み合わせをしながら、その内容に日々の教室実践を重ね、子どもの姿をみつめ、自分の指導や支援を振り返るといった独特の研修スタイルが息づいていたのです。その研修の特徴は、子どもも教師も同じように未完成で不完全で悩みの尽きない人間としてこの世に存在しているという認識が共有化されていることであり、そのような個人と個人が、学校という教育の場で、児童・生徒と教師という立場でどのようにして自己を高めていったらよいのかを問う時間であったのです。

失ってはならない自己の内面を覗きながら見識を深めていく研修が、風前の灯火となりつつある今の教育現場に、信念を貫く一実践としての些細な取り組みを紹介させていただきます。

（前 長野市立柳原小学校長）



卒業・修了生の就職状況

就職部長 伏木 久始

本学部の就職支援活動に対して、教育学部同窓会より多大なご支援を賜っておりますことを、心より感謝申し上げます。

さて、平成二十五年度の教育学部卒業生及び大学院教育学研究科修了生の進路状況がまとまりましたので下欄の表の通りご報告致します。教員養成課程の教員就職率は昨年度比で約一%上昇し、特に正規採用者数が増えた点が明るい話題としてご紹介できます。しかし、長野県教育委員会の三〇人規模学級の施策に合わせた採用増枠は終了し、年金支給年齢の先送りに伴う定年退職者の再任用制度の採用枠が今後増加することが見込まれるため、以降の卒業生の教員就職状況は楽観できるものではありません。

大学生の就職状況は社会情勢の変化と連動しますが、教員養成を担う本学部でも、近年の「改革」と「評価」が優先される諸政策の波に逆らえず、「教員就職率日本一プロジェクト」なる取り組みをスタートさせて3年目を迎えております。これは、単に教員採用試験対策に力を入れるという数字ねらいの事業ではなく、学校や教員をめぐる環境が厳しくなる中、これから教員を目指す学生に高度な専門性と人権意識を授けると共に、多様性と協同性を尊重できる教員を日本一多く学校現場に送り出すことを真の目標に据えたものと私は受け止めております。そのために、長野県内外の教員就職状況を多面的に調査し、学生のキャリア意識を高める工夫を行い、模試・面接指導などの具体的支援にも努力して参ります。

今後皆様から忌憚のないご意見・ご要望をいただきながら一層就職支援を充実させていきたいと考えておりますので、ご協力をお願い申し上げます。

平成25年度卒業生・修了生 進路状況

就職・進学別 学部 (学習分野)・ 大学院別		就職																進学																合 計	備 考	
		県内								県外								教員外								進学										
		小 学 校	中 学 校	高 等 学 校	特 別 支 援 学 校	幼 稚 園	そ の 他	計	小 学 校	中 学 校	高 等 学 校	特 別 支 援 学 校	幼 稚 園	そ の 他	計	計	公 務 員 一 般	会 社 員	病 院	ス ポ ー ツ 施 設	福 祉 施 設	そ の 他	計	大 学 院 研 究 科	大 学 院 他 大 学	専 門 学 校	そ の 他	小 計	現 職 教 員	家 探 待 ち	未 定					
学 部	教 育 学 部	臨 牀 学 校 教 育 学	男 女	1 2	1 (1)	1 (1)			3 (2)	1 2					1 ()	4 (2)						1 3	1										7			
		総 合 ・ 生 活 科 教 育	男 女	2 3					0 ()	1 2					1 ()	1 ()		1				1 2											4			
		国 語 教 育	男 女	3 (2)	2 (2)				3 (2)	1 2					2 (1)	4 (1)						2 1											4			
		社 会 科 教 育	男 女	3 (2)	2		1 (1)		3 (1)	1 2		1 (1)	1	1 (1)	3 (2)	6 (3)	1	1				1 1		6									14			
		数 学 教 育	男 女	5 (2)	1				6 (2)	2 4	1 (1)				6 (1)	12 (3)		1				1		1									16			
		理 科 教 育	男 女	2 (1)	4 (2)				6 (3)	5 (1)					5 (1)	11 (4)		1				1		2									15			
		音 楽 教 育	男 女	4 (2)	2 (1)				0 ()	3 (1)					0 ()	9 (4)	1	4				5	3										0			
		美 術 教 育	男 女	2 1	2 (2)				2 ()	2					0 ()	2 ()																	3			
		保 健 体 育 科 教 育	男 女	1 3	1				1 ()	5 (1)					1 ()	2 ()	1	1				1		2	2		1						7			
		情 報 ・ 技 術 教 育	男 女	3 (1)	3 (2)		1		3 (2)	1					1 ()	4 (2)																		6		
		ラ イ フ ア ン ニ ン グ 教 育	男 女	7 (1)	1				0 ()	1					1 ()	1 ()																		1		
		英 語 教 育	男 女	1 3					4 ()						0 ()	4 ()	1	1				1	3	3										11		
		国 際 理 解 教 育	男 女	1 3	1 (1)				1 ()	1					1 ()	5 (1)		2						2										1		
		環 境 教 育	男 女	2 (1)	1 (1)				3 (1)	3 (3)	2 (1)				5 (4)	8 (5)						1												9		
		特 別 支 援 学 校 教 員 養 成 課 程	男 女	3 (1)			1 ()		1 ()	8 (3)					0 ()	1 ()					3	1	5	1										1		
		教 員 養 成 課 程 計	男 女	11 (4)	20 (7)	2 (1)	3 (1)	0 ()	36 (13)	8 (3)	15 (4)	1 ()	1 (1)	0 ()	25 (8)	61 (21)	4	0	6	0	0	3	13	15	1	1	0	0	17	0	0	5	4	100		
		計	男 女	34 (14)	60 (21)	5 (2)	2 ()	0 ()	55 (19)	21 (5)	6 (1)	2 (2)	3 ()	1 ()	33 (8)	88 (27)	6	0	14	1	0	3	27	5	3	1	0	0	9	0	0	4	7	135		
部	生 涯 ス ポ ー ツ 課 程	地 域 ス ポ ー ツ	男 女	2 (2)	1 (1)				2 (2)	3 (1)					0 ()	2 ()	1	4				2	3											10		
		野 外 教 育	男 女	2 (2)					2 (2)	1 ()					0 ()	2 ()	1	1																4		
		教 育 カ ウ ン セ リ ン グ 課 程	男 女						0 ()	0 ()					0 ()	0 ()	2																	6		
		非 教 員 養 成 系 計	男 女	4 (4)	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	4 (4)	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	4 (4)	2	2	5	0	0	0	9	4	2	0	0	0	6	0	0	0	1	20		
		計	男 女	1 (1)	0 ()	1 ()	0 ()	2 ()	4 (1)	2 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	6 (1)	1	3	0	0	1	3	9	4	5	0	0	0	9	0	1	2	0	27		
		計	男 女	5 (5)	0 ()	1 ()	0 ()	2 ()	8 (5)	2 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	2 ()	10 (5)	3	3	0	0	1	3	18	8	7	0	0	0	15	0	1	2	1	47		
		計	男 女	15 (8)	20 (7)	2 (1)	3 (1)	0 ()	40 (17)	8 (3)	15 (4)	1 ()	1 (1)	0 ()	25 (8)	65 (25)	6	2	11	0	0	0	3	22	19	3	1	0	0	23	0	0	5	5	120	
		計	男 女	35 (11)	44 (16)	1 ()	5 (2)	4 ()	59 (20)	23 (5)	6 (1)	2 (2)	3 ()	1 ()	35 (8)	94 (28)	7	1	17	1	0	4	6	36	9	8	1	0	0	18	0	1	6	7	162	
		計	男 女	50 (19)	64 (24)	3 (1)	8 (3)	4 ()	99 (37)	31 (8)	21 (5)	3 (2)	4 (1)	1 ()	60 (16)	159 (53)	13	3	28	1	0	4	9	58	28	11	2	0	0	41	0	1	11	12	282	
		計	男 女	1 (1)	2 (1)				3 (2)	3 (1)					3 (1)	6 (3)		2																15	②	
学 部	教 育 学 研 究 科	計	男 女	2 (1)	4 (1)	0 ()	0 ()	0 ()	6 (2)	3 ()	4 (1)	0 ()	0 ()	0 ()	7 (1)	13 (3)	1	1	3	4	0	2	6	17	0	0	0	0	0	4	0	2	3	39	⑥	
		計	男 女	16 (9)	22 (8)	2 (1)	3 (1)	0 ()	43 (19)	8 (3)	18 (5)	1 ()	1 (1)	0 ()	28 (9)	71 (28)	6	2	13	0	0	0	5	26	19	3	1	0	0	23	3	0	7	5	135	②
		計	男 女	36 (11)	44 (16)	1 ()	5 (2)	4 ()	62 (20)	26 (5)	7 (1)	2 (2)	3 ()	1 ()	39 (8)	101 (28)	8	2	18	5	0	6	10	49	28	11	2	0	0	18	1	1	6	10	186	④
		計	男 女	52 (20)	68 (25)	3 (1)	8 (3)	4 ()	105 (39)	34 (8)	25 (6)	3 (2)	4 (1)	1 ()	67 (17)	172 (56)	14	4	31	5	0	6	15	75	28	11	2	0	0	41	4	1	13	15	321	⑥
合 計		計	男 女	52 (20)	68 (25)	3 (1)	8 (3)	4 ()	105 (39)	34 (8)	25 (6)	3 (2)	4 (1)	1 ()	67 (17)	172 (56)	14	4	31	5	0	6	15	75	28	11	2	0	0	41	4	1	13	15	321	⑥

(注) ()は臨採で内数、○は外国人留学生で内数

就 職 率(学 部)(進学者を除く)	90.04%
教員就職率(学 部)(進学者を除く)	65.98%
教員養成課程卒業生に対する教員就職率	63.4%

信州大学教育学部同窓会

第二十七回通常総会(通知)

日時

平成26年8月11日(月)

午前10時より

会場

長野市岡田町
「ホテル信濃路」

次第

1. 開会宣言
2. 会長挨拶
3. 議長団選任
4. 議事録署名人の選任並びに書記の任命
5. 議事
第一号議案 平成25年度事業報告及び歳入・歳出決算報告について
第二号議案 平成26年度事業計画(案)及び歳入・歳出予算(案)の承認について
第三号議案 役員の評任及び交代について
6. 来賓紹介、代表挨拶
7. 閉会宣言

記念講演会：12時より

講師／田中 敏 氏

祝賀懇親会：13時より

記念講演のご案内(一般公開)

『道徳教育への心理学からの提言』



信州大学学術研究院(教育学系) 田中 敏 氏

現在、児童生徒のいじめ問題に端を発し教育政策としての道徳の教科化が審議され、早ければ来年度(平成27年度)からの実施も視野に入っているといわれます。対

する学校教育の現場では、従来から道徳教育の内容と方法について手探りの状態が続いているというのが実情です。学習指導要領「生きる力」において道徳教育の目標は明示されていますが、それを実現するための具体的な教材や授業案はいまだ試行錯誤の段階にあるといっても過言ではありません。児童生徒による道徳学習に対する評価も、基本的には評定段階を用いないことになっています。

こうした道徳教育をめぐる模索的状况において、発達心理学・教育心理学の立場から若干の提案をしてみたいと思います。実際に、児童生徒における道徳心の発達は、心理学の古典的テーマの一つです。それによれば、道徳的な良い態度、良い行いを身に付けるには、同時にまた、反価値としての悪い態度、

悪い行いをいかに押さえるかを学ぶ必要があります。

よく知られた例は、フランスの寓話作家であるラ・フォンテーヌの『キツネとブドウ』のお話です。散歩していたキツネは、高い崖の上に実った熟れたブドウを見つめますが、どんなにジャンプしても取れません。その欲求不満をキツネは次の言葉で解消します。「すぐおいしそうに見えるけれど、あれはホントはとても酸っぱくて食べられたものじゃないのさ!」これは心を守る仕組みの一つ「合理化」といわれるものです。

ブドウを食べたいと思うことは、いじめや暴力のように不道徳ではありませんが、そうした欲求から解放される仕組みは、攻撃欲求や暴力欲求がふつうの人では実行されない仕組みと同じものです。そうした何らかの欲求に対処する知識と技術を、心の仕組みとして学ぶことが心を良くする第一歩になるのではないかと考えます。

道徳そのものは価値にほかならず、道徳教育は価値の教育であり、他の教科のように体系化された知識の教育ではありません。しかし、「わがままをしないようにする」には「わがまま」をどうしたらいいか、「他人と仲良くする」には嫌いな相手に対する感情をどうしたらいいか、そうした欲求を押さえるやり方は心理学の体系化された知識として存在

し、国語や算数の内容のように概念的に学ぶことができます。それなら評定段階によるテストも可能になるでしょう。計算問題の誤りと同じように、いじめは「いじめたい」という問題に対処する知識不足、能力不足として子どもたちに理解させることも可能になるでしょう。

記念講演終了後、「ホテル信濃路」において祝賀懇親会(費四、〇〇〇円)を開催します。
こちらへも多数ご参加くださいますようお願い申し上げます。
申し込みは同封の葉書で事務局までお願いいたします。

事務局便り

○研究補助受付中

研究補助申請を四月より受け付けております。詳細は同窓会ホームページをご覧ください。また、本号の六ペーシ・同窓会情報の欄をご参照ください。昨年度の助成交付の研究テーマなどが掲載されております。

○住所変更をお忘れなく

転居の際には住所変更の届を事務局宛てにお願い致します。メールでも結構です。

○会費の二重払いについて

同窓会費の二重払いに注意してください。同窓会費は終身会費です。未納者には、後日、納入願いの書面が届きます。二重払いの場合にはお返しますが、振り込み手数料等がかかりますので全額返金はできません。

○事務局の交代

平成二十四年より事務局長をお勤めいただきました久保信男先生は四月末日をもちまして退職されました。なお、五月より中村直人先生にお勤めいただいております。

事務局連絡先

電話 026-238-4370
月・水・金 9:30～16:30
HP <http://taaedu.shinshu-u.ac.jp>
Email kdousou@shinshu-u.ac.jp